

第1編および第2編本文のスタイルファイル

用紙, 余白

A4用紙. 余白は上下左右ともに20mm. 一段組. 特に指定がない限り, フォントは11ポイントのMS明朝体(全角), Times New Roman(半角)が基本. 1ページあたり39行を基本とする. 句読点は「、。」ではなく「, .」.

ひらがな, カタカナ, 漢字, ギリシャ文字, 句読点は全角. アルファベット, 数字は半角.

章スタイル

章は「1. 総則」のように14ポイント, MSゴシック. 章番号は全角数字, 全角ピリオド. ピリオドの後は続けてタイトルを記入する. 第2編においては, 「1. ロックシェッドの包括設計コード」, 「2. ワイヤロープ型落石防護工の包括設計コード」, 「3. 車両防護施設の包括設計コード」, 「4. 砂防堰堤の包括設計コード」となる.

節スタイル

節は「3.1 ○○○○」のように11ポイント, MSゴシック. 節番号は半角数字・半角ピリオド. 節を表す数字の後は全角スペース. 節タイトルの上には1行スペースを入れる.

項スタイル (必要に応じて設置)

項は「3.1.1 ○○○○」のように11ポイント, MSゴシック. 半角数字・半角ピリオド使用. 項を表す数字の後は全角スペース. 節スタイルと項スタイルが同枠内に共存しても節スタイルと項スタイルの間には空白行を入れない.

枠内のスタイル

通常の場合は, 1文字下げして書き出す. フォントは11ポイントのMS明朝体(全角), Times New Roman(半角)が基本.

- (1) 箇条書き番号を使用する場合には, ここに示すように両カッコ付箇条書き番号を半角表示する.
- (2) 箇条書き番号をさらに細分化する必要がある場合には, 次のように a), b) のようにする.
 - a) フォント
フォントは11ポイントのMS明朝体(全角), Times New Roman(半角)が基本.
 - b) 1行の文字数
1ページあたり39行を基本とする.

書き方の例

- (1) 衝撃作用には, 大別して衝突作用と爆発作用がある. 本包括設計コードは, これらの作用を受ける土木構造物の設計に対して適用される.
- (2) 本包括設計コードは, 土木構造物の衝撃作用に対する設計を性能設計の考え方にに基づき, 設計示方書, マニュアルなどを策定する場合に適用される.
- (3) 本包括設計コードでは, 耐衝撃性能を要求される構造物を設計する場合の, 目的, 要求性能, 性能規定, 照査および審査に関しての一般事項を示す.

- (1) 落石防護工は、防護対象との距離関係によって、次の種類がある。
 - a) 直接防護工
道路や鉄道軌道などの防護対象を上部および山側の側面部の全てを覆い尽くし、防護対象の使用空間領域への落石の侵入を確実に防ぐ構造物である。ロックシェッドは、この代表的構造物である。
 - b) 山際防護工
道路や鉄道軌道などの防護対象の山際に隣接する側面部に設置して防護対象の使用空間領域への落石の侵入を防ぐ構造物である。直接防護工のように防護対象の上部を覆っていないため、落石の跳躍高さによっては、捕捉出来ずに道路上部の空き領域から侵入する可能性もある。
 - c) 間接防護工
道路や鉄道軌道などの防護対象から離れた山側斜面等に設置する防護工であり、多くの場合、落石の捕捉・停止機能よりも、落石運動エネルギーの低減や、落石の運動方向の制御などのために設置される。
- (2) 落石防護工は、落石の捕捉度によって、次の種類がある。
 - a) 完全遮断型
落石の大小にかかわらず、防護対象空間への侵入を防止する。
 - b) スクリーニング型
一定の大きさ以上の落石の防護対象空間への侵入を防止する。
- (3) 落石防護工は、落石への対応によって、次の種類がある。
 - a) 捕捉型
落石の進行方向に直行するように設置され、落石を防護工の山側上部に停止させる。
 - b) 誘導型
落石の運動方向を変化させる機能を重視した防護工。落石を無害な方向へ誘導したり、落石の運動方向を変化させて、自然の壁面や、水平地上面へ衝突させて停止させる機能を持つものなどがある。
- (4) 落石防護工は、その変形性能によって、次の種類がある。
 - a) 剛構造
落石の衝突によって、変形するが、自立安定形状を有する構造。
 - b) 柔構造
落石の衝突に対して、構造全体、もしくは構造の一部が大きな変形を生ずるものであり、この変形部には、自立安定性がなく、与張力などの形状安定を保つための力を与えることによって待ち受け形状が保持される構造。
- (5) 落石防護工は、その構成材料によって、次の種類がある。
 - a) 鋼製防護工
落石の衝突部が、鋼製部材によって造られた防護工。
 - b) 鉄筋コンクリート製防護工
落石の衝突部が、鉄筋コンクリート部材によって造られた防護工。
 - c) プレストレストコンクリート製防護工
落石の衝突部が、プレストレストコンクリート部材によって造られた防護工。
 - d) 土えん堤・擁壁型防護工
落石の衝突部が、土や石礫等のえん堤・擁壁によって造られた防護工。
 - e) ワイヤロープ型防護工
落石の衝突部が、ワイヤロープによって造られた防護工。
 - f) その他
上記のものの組み合わせた構造や、他の材料を用いた防護工。他の材料として、金網なども使用される。

解説の書き方

【解説】(11ポイント全角, MSゴシック)を解説文の前につける。

通常の場合は, 1文字下げして書き出す。フォントは11ポイントのMS明朝体(全角), Times New Roman(半角)が基本。ただし, 箇条書き番号を使用する場合には, 下の例に示すように片括弧付箇条書き番号[1), 2), 3)・・・]を半角表示する。

解説の例

【解説】

落石防護構造物には各種存在するが, それらの名称と特徴を以下に示す。

- 1) ロックシェッド(直接防護工、完全遮断型、捕捉・誘導型、剛構造)
道路や鉄道などの線状の被防護施設全体を, 屋根で覆うことで防護する構造である。通常, 屋根の上には敷砂などの緩衝材を設置することが多い。落石の規模が大きい場合あるいは落石防護柵等では飛び越すおそれのある場合に設置される。
- 2) 落石防護柵(山際防護工、完全遮断型、捕捉型、剛構造)
斜面の法尻部に設置する構造物で, 落石を受け止める面には敷砂などの緩衝材を設置することが多く, その傾きは水平面から30度以内が多い。落石の落下範囲が道路幅員の山側の一部に限られる場合等に設置される。
- 3) 落石防護柵(山際・間接防護工、完全遮断・スクリーニング型、捕捉・誘導型、剛・柔構造)
柱を立ててその間をワイヤーロープやネットで構成し落石を受け止めるものと, 落石を受け止める面を剛性のある部材で構成するものがある。後者は, 土嚢などの緩衝材を設置し, 支柱は入型とすることが多い。斜面の中間部に設置する場合と法尻部に設置する場合がある。
- 4) 落石防護壁(山際防護工、完全遮断型、捕捉・誘導型、剛構造)
斜面の法尻部に擁壁を設置し, それにより被防護施設を護る構造で, 上部に落石防護柵を設置することもある。防護壁の背後にポケット部を設け, その堆積容量を確保するため, 道路側方に余裕のある場合に設置される。
- 5) 落石防護網(山際防護工、スクリーニング型、誘導型、柔構造)
斜面を直接覆い, 落石の発生を防止すること, もしくは発生した落石を飛び跳ねることなく斜面に沿って誘導させる構造で, 主にワイヤーロープとネットで構成される。危険斜面全体を覆う覆式と, 斜面下部に設置し, 斜面上部で発生した落石を開口部のポケットに取り込み斜面に沿って落ちるよう誘導するポケット式がある。
- 6) 落石防護土堤, 溝(山際防護工、完全遮断型)
斜面法尻部の比較的平坦な余裕がある地形に土堤や溝を設置し, 落石のエネルギーの吸収・消散をはかり落石を阻止する構造である。

図表など

図、写真のタイトルはそれらの下に、表のタイトルは上に、11ポイントで書く。図表の番号は章番号と通し番号をつけ記載する。例えば、第3章の5番目の図であることを図3.5と表す。図表は、それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする。やむを得ない場合は、次ページになってもよいが、章末尾にまとめたり、引用する文章よりも前のページにきてはいけない。

図、表の中の文字は11pt以下の大きさにし、フォントはMS明朝もしくはTimes New Romanとする。

第3編以降のスタイルファイル

用紙, 余白

A4用紙. 余白は上下左右ともに20mm. 一段組. 特に指定がない限り, フォントは11ポイントのMS明朝体(全角), Times New Roman(半角)が基本. 1ページあたり39行を基本とする. ±2行の誤差は認める. 句読点は「、。」ではなく「, .」.

ひらがな, カタカナ, 漢字, ギリシャ文字, 句読点は全角. アルファベット, 数字は半角. ただし, 章番号「第○章」のときはのみ例外で全角.

章スタイル

章は「第○章 ○○○○」のように14ポイント, MSゴシック. 章番号は全角数字. 「章」の文字の後は全角スペースを使用. ページの先頭, 中央に置く. 枠内には記入しない. 初タイトルを書いた後は2行空ける

節スタイル

節は「3.1 ○○○○」のように11ポイント, MSゴシック. 節番号は半角数字・半角ピリオド. 節を表す数字の後は全角スペース.

項スタイル

項は「3.1.1 ○○○○」のように11ポイント, MSゴシック. 半角数字・半角ピリオド使用. 項を表す数字の後は全角スペース.

図表など

図, 写真のタイトルはそれらの下に, 表のタイトルは上に, 11ポイントで書く. 番号は章ごと通し番号をつけ, 章番号, 半角ピリオド, 通し番号の純で記載する(図3.1, 表3.3など). 図表は, それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする. やむを得ない場合は, 次ページになってもよいが, 章末尾にまとめたり, 引用する文章よりも前のページにきてはいけない.

図, 表の中の文字は11pt以下の大きさにし, フォントはMS明朝もしくはTimes New Romanとする.

数式

数式はセンタリングし, 各章ごとに番号をつけ, 右寄せで表記する. 番号は半角括弧でくくる. 式と式番号の間にはなにも記さない. 例えば, 第4章中の3番目の式番号は次のように表示する.

$$H_s = 1.5 k_n R_d \quad (4.3)$$

文章中の式の参照は, 「式(4.3)」のように記述する.

単位系

単位は原則として SI 単位を用いること。単位の字体は「立体」とする。「斜体」にしない。

参考文献

章全体を通して番号をつけ、章の最後にまとめて掲載する。参考文献の表記は、土木学会論文集投稿規定に準じる。一つの参考文献が 2 行以上にわたる場合は、作成例にあるようにインデント（頭下げ）を行う。

本文中で参照する場合には、半角、MS 明朝で「梶田ら²⁾」のように上付きで記述する。2 つ以上の論文を同時に参照するときは「文献^{1),2)}」とする。参考文献では西暦を使用する。

参考文献

見本

- 1) (社) 日本道路協会：道路橋示方書 V 耐震設計編，丸善，1996.12.
- 2) 梶田幸秀，西本安志，石川信隆，香月智，渡邊英一：桁間衝突現象のモデル化に関する一考察，土木学会論文集，No.661/I-53，pp.251-264，2000.10.

第1編付録の付録スタイルファイル

用紙, 余白

A4用紙. 余白は上下左右ともに20mm. 一段組. 特に指定がない限り, フォントは11ポイントのMS明朝体(全角), Times New Roman(半角)が基本. 1ページあたり39行を基本とする. ±2行の誤差は認める. 句読点は「、。」ではなく「,。」.

ひらがな, カタカナ, 漢字, ギリシャ文字, 句読点は全角. アルファベット, 数字は半角. ただし, 付録番号「付録〇」のときのみ例外で全角.

付録タイトル

タイトルは

第1編の場合「付録-I-付録番号 ○○○○」

14ポイント, MSゴシック. ハイフンは全角, 作用番号・付録番号は全角数字. 付録番号の後は全角スペースを使用. ページの先頭, 中央に置く.

例

付録-I-1 Code-Platform

付録-I-2 安全に関する各種規定とリスクマネジメント

付録-I-3 構造物の重要度-性能マトリクスと部分安全係数-

付録-I-4 土木構造物共通示方書&土木構造物に対する作用の指針における衝撃作用の抜粋

節スタイル

付録には, 章は存在しないもとし, 節から始まるものとする. 例えば, 付録番号3の節は「3.1 ○○○○」, 「3.2 ○○○○」のようにする. フォントは11ポイント, MSゴシックとし, 節番号は半角数字・半角ピリオド. MS Wordなどでは, 半角数字が英語フォントになるが, 日本語ゴシックになるように注意. 節の前には空白行を一行入れる. 節の後ろにも空白行を一行入れる.

項スタイル

項は「3.4.6 ○○○○」のように11ポイント, MSゴシック. 半角数字・半角ピリオド使用. 項の前には空白行を一行入れる. 項の後ろには空白行を入れない.

小見出しスタイル

小見出しスタイルについては特に規定しないが, 11ポイントゴシックの半角を使用.

図表など

図, 写真のタイトルはそれらの下に, 表のタイトルは上に, 11ポイント, MSゴシックで書く. 番

号は付録ごとに付け、「図」は「付図」と前に「付」をつける。例えば、付録番号3の付図ならびに付表である場合、付図 3.1, 付表 3.5 などのように標記する。図表は、それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする。やむを得ない場合は、次ページになってもよいが、付録末尾にまとめたり、引用する文章よりも前のページにきてはいけない。

図、表の中の文字は 11pt 以下の大きさにし、フォントは MS 明朝もしくは Times New Roman とする。

数式

数式はセンタリングし、付録番号ごとに番号をつけ、右寄せで表記する。番号は半角括弧でくくる。式と式番号の間にはなにも記さない。例えば、付録番号4番中の3番目の式番号は次のように表示する。

$$H_s = 1.5 k_n R_d \quad (4.3)$$

文章中の式の参照は、「付式(4.3)」のように記述する。

単位系

単位は原則として SI 単位を用いること。単位の字体は「立体」とする。「斜体」にしない。

参考文献

論文全体を通して番号をつけ、論文の最後にまとめて掲載する。参考文献の表記は、土木学会論文集投稿規定に準じる。一つの参考文献が2行以上にわたる場合は、作成例にあるようにインデント（頭下げ）を行う。

本文中で参照する場合には、半角、MS 明朝で「梶田ら²⁾」のように上付きで記述する。2つ以上の論文を同時に参照するときは「文献^{1),2)}」とする。参考文献では西暦を使用する。

参考文献

- 1) (社)日本道路協会：道路橋示方書 V 耐震設計編，丸善，1996.12.
- 2) 梶田幸秀，西本安志，石川信隆，香月智，渡邊英一：桁間衝突現象のモデル化に関する一考察，土木学会論文集，No.661/I-53, pp.251-264, 2000.10.